

<一般財団法人大蔵財務協会理事長賞>

## 人や未来を育てる税

西会津町立西会津中学校

2年 飯嶋 彩香

7月14日、私の通う西会津中学校にチェアスキーヤーでソチパラリンピック金メダリストの鈴木猛史さんが講演にいらっしゃいました。それまでの私はチェアスキーはおろか、パラリンピックについてもよくわからなかったので、お話を聞くのがとても楽しみでした。

鈴木選手は世界を代表するチェアスキーヤーで私たちと同じ福島県出身でもあります。幼い頃、不慮の事故で脚を切断したこと、その後も同級生と同じように学校生活を送ったこと、チェアスキーに出会ったことなど、鈴木選手の今までの人生に起きたことを語ってくださった中で、ひとつ、気にかかることをおっしゃいました。

「パラリンピックには、国からたくさんの税金をいただいて、参加することができます。」

それまでの私は、税金といえば「お金を取られる」という認識ばかりで、「何に使われているのか」という点についてはよく知りませんでした。だから、これをきっかけに税金の使われ方について調べてみることにしました。

まず、納税には直接税と間接税があり、私が良く知っている消費税は間接税に当たります。しかし、消費税は歳入全体の17%に過ぎず、所得税や法人税などの直接税が大きな収入の柱になっているということです。では、なぜ税を取るのかというと、税金で私たちの日本を動かすためです。集めた税金は社会保障や教育、公共事業、国の防衛、経済援助と、様々な用途に使われ、私たちの生活を支えていることが初めてわかりました。

なかでも教育に関することでは、私の通っている学校や、使っている教科書、そして生活を豊かにするための科学技術開発など、今現在から未来のことまで考えられ、たくさん

のことに使われていることがわかりました。その中に鈴木選手のおっしゃった「たくさんの税金をいただいて参加することができる」、オリンピックなどの選手強化費が含まれていました。国を代表する選手が心配なく、思いっきりプレーできるように税金を使ってバックアップすることは、その人の可能性を育てることでもあると思います。こうして考えてみると、教育には今現在の子どもを育てる、という役割のほかに、「未来のために今を育てる」という大きな役割があるように思いました。国として税金を使って選手を応援することはすばらしいなと思います。

この講演の後、リオ・オリンピックがありました。たくさんの日本人選手が表彰台ではじけるような笑顔と喜びの涙を流している様子を見て、鈴木選手もこの表彰台を目指してがんばっているんだろうなと思いました。そんな選手のみなさんを私も応援したい。私の払う消費税がもしかして役に立っているかもしれないと思うと、とても誇らしい気持ちで買い物をすることができました。